

龍馬を求める人々の思いに応えるとともに、龍馬の中核施設としての機能充実を図る

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき龍馬に関する資料を収集し、適切に保存する

評価項目

(1) 他の博物館との連携や資料所有者との信頼関係の構築に努め、資料の充実を図る

状況説明

- ・NHKの番組制作中に新たに発見され大きな話題となった龍馬書簡《越行の記》が所有者より寄託された。本書簡は9月にこれまで交流のなかった福井県立歴史博物館へ貸出を行い、福井県立歴史博物館からは由利公正関係資料の借用について内諾を得ることができた。
- ・幕末維新期に活躍した医師・坂井直常の子孫から、鶏卵紙にプリントされた 123 点の写真をおさめたアルバムを購入した。写真には幕末の偉人も 20 数点含まれており、展示等に大いに活用できる資料を収蔵した。
- ・当年度に開催した「4代目 坂本直道展」に関連して、龍馬の子孫である坂本寿美子氏より 12 代目酒井柿右衛門から坂本家に送られた白磁の龍馬像を寄贈していただいた。また、この件をきっかけにして、坂本家とのご縁が繋がったことも館にとって貴重な財産となった。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに発見された龍馬書簡《越行の記》について、所有者との信頼関係の構築に努めた結果、高知県への寄託が実現した。 ・また、幕末維新期の写真資料を収集したほか、坂本家に伝わる白磁の龍馬像の寄贈を受けるなど、所蔵資料の充実を図った。

評価項目

(2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

- ・資料は、受入の都度、整理を行い台帳へ登録するとともに、資料の形状、特徴に応じた保存環境を整えている。
- ・収蔵庫等の保存環境についても、学芸員がチェックし、適切に管理している。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・上記により、適正に資料が保存管理されていると認められる。

要求水準－調査・研究

龍馬に関する調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

(1) 職員の専門性の向上を図るとともに、龍馬とその関連分野に関する調査研究を進める

状況説明

- ・新書簡《越行の記》の裏書に名前が書かれていた林市郎右衛門について調査を進め、子孫を突き止めることができた。そして、子孫の所有する蔵を調査する機会を得て、土佐の志士・北添佶磨らの書簡を発見し、現在も継続して調査を行っている。
- ・坂本直常の子孫から購入した写真アルバムについて、映っている人物を特定するため、維新期の医師の写真を多く所蔵する長崎大学に調査協力を依頼し、共同で調査を進めている。
- ・学芸員がそれぞれに調査研究を進めており、企画展や龍馬学会での成果発表を目指している。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none">・新書簡の発見をきっかけに、土佐の幕末史に関係した新たな資料の発見にもつながったことは評価できる。・資料の収集だけにとどまらず、他の機関との研究協力を行うなど、所蔵資料の内容の充実を図っている。・それぞれ調査が継続している段階であり、成果報告に期待したい。

評価項目

(2) 調査研究の成果を、企画展や広報媒体などを活用し、広く公表する

状況説明

・調査研究の成果を年間4本の企画展により広く公開した。
・1本目は禁門の変や池田屋事件、野根山事件で亡くなった土佐の志士を紹介した。2本目は、夏休みに合わせ、幕末の世情を面白おかしく表現した風刺画を取り上げた。当時の庶民の目線になって幕末をひも解く内容であった。3本目は、幕末の書画と写真を紹介する展示とし、新収蔵した坂本直常のアルバムを展示した。4本目は、これまで注目されてこなかった龍馬の子孫・坂本直行に焦点を当てた。第二次世界大戦の回避のためにヨーロッパを奔走したエピソードなどから直行の魅力的な人となりを紹介した。
・特別展示として、5月には新たに発見された書簡《越行の記》を公開し、龍馬伝前後を除いて過去最高の来館者を記録した。

評価	理由
A	・研究の成果を年間4本の企画展で広く公開した。 ・夏休みに合わせて、子どもでも理解しやすい風刺画から幕末社会を紹介するなど、入館者の目線にたった企画の工夫をおこなっている。 ・全国的にも話題になった新書簡を特別展として寄託後すぐに公開することで、入館者の増加につながっている。

要求水準－展示・公開

土佐の気風と幕末維新の息吹が感じられる魅力ある展示やサービスの提供により、龍馬の業績を伝える

評価項目

- (1) 「桂浜」や「龍馬像」に隣接する立地条件を生かし、来館者の増加につなげる施策を戦略的に展開することにより、5年間で70万人以上の来館者を目指す

状況説明

- ・桂浜に関係する5団体で、よさこいチーム「桂浜・龍馬プロジェクトぜよ」を組織し、よさこい祭りに参加することでPR活動を行った。
- ・龍馬が生まれた11月を「龍馬月間」と定め、高知市などと連携しイベントを開催した。特に龍馬の生まれた15日に行われる「龍馬生誕祭」では、桂浜公園で手筒花火、よさこい演舞、和太鼓共演などを実施した。16日には桂浜の龍馬像から館の入り口に設置しているシェイクハンド龍馬像までを手をつないで結ぶ「レッツゴー！ハンドインハンド」を開催し、750名の参加者を得た。
- ・隣接する国民宿舎「桂浜荘」と連携し、割引制度を実施するなど、地域と一体となった取り組みを行い、年間15万人弱の来館者を記録した。

評価	理由
A	・積極的なイベントの開催や、広報活動等により、目標を上回る入場者を記録した。

評価項目

- (2) 来館者に龍馬の志や生涯を深く理解してもらえよう、幕末史や土佐の郷土史のなかに龍馬を位置づけた展示を行う

状況説明

- ・作品1点ごとに現代語訳をつけるなど、わかりやすい展示を行っている。しかし、形状や長さによって、展示できるケースが決まってしまう、また限られたスペースのなかではそれらの展示ケースを順序良く並べることが難しいという課題がある。
- ・限られた展示空間のなかで、幕末史や土佐の郷土史の中に龍馬を位置づけた展示を行うことは難しいが、映像やパネルで補いながら、来館者の理解を深める展示を行うよう努めた。

評価	理由
B	・1点1点の作品を深く理解してもらうため展示方法の工夫をしている。 ・館の構造的な課題を解決するため、作品だけでなく映像やパネルを用いるなど、来館者の満足度をあげる展示を行っており評価できる。 ・資料を展示できるスペースは限られているが、龍馬を郷土史や幕末史の大きな流れのなかでどう位置付けるかの研究の深化、成果発表に期待したい。

評価項目

(3) 龍馬に関する専門施設として、一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや、学芸員によるギャラリートークなど、来館者の理解が深まる取り組みを充実させる

状況説明

- ・学芸員は、研修会への参加などを通じて、龍馬や幕末維新史に関する研究動向など情報収集に努め、得られた情報を企画展示や講演会などに反映させている。また、解説員も龍馬や幕末維新史の知識を蓄積し、来館者のニーズに応える努力を行っている。
- ・館内案内の要望には、学芸員及び解説員が状況の許す限り対応している。特に学校団体の要望には積極的に対応しており、大人数の場合は少数グループにわけて案内するなど工夫している。
- ・レファレンスサービスは、来館・電話・メールなどで適宜対応しており、迅速かつ明確な回答を行った。
- ・入館者には、来館時にパンフレットとともにアンケートを渡している。回収したアンケートは館長が目を通し、その都度適切な対応をとるなど、サービス向上を図った。
- ・8名のカルチャーサポーター(ボランティア)も、こども教室の補助や近江屋復元セットでの解説などを行っている。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・学芸員が常にアンテナを張り、最新情報を集積、反映させていることで、「龍馬のことがなんでもわかる館」として全国的にも評価されている。・学芸員、解説員、カルチャーサポーターともに資質の向上に努め、来館者の疑問や質問に対応している。

要求水準－教育・普及

次代を担う子どもたちをはじめ、県民に龍馬について正しく理解してもらうため、教育普及活動の充実を図る

評価項目

(1) 学校との連携による出前授業の実施や校外学習活動の受入を積極的に行うなど、子どもたちの幕末維新や土佐の歴史を学ぶ機会を充実させる

状況説明

- ・毎年 30 件程度の出前授業が定着している。
- ・埼玉県の中学校では、中学三年生を対象に龍馬からのメッセージとして進路学習を行った。また、全校へ向けた授業要望もあり、県外の学校とのつながりも深めている。
- ・8月15日の終戦の日には、「夏休み子ども・龍馬フォーラム」を開催し、全国から集まった小～高校生 20 名が龍馬について学んだ。
- ・高知市立一ツ橋小学校では、校長と学芸員による授業を行った。
- ・館での学習や見学は約 60 校、約 3,000 人に及んだ。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・県内だけでなく県外の学校とも連携を行い、龍馬の事績を発信しており、評価できる。・学校団体の利用を積極的に受け入れており、子どもたちに龍馬の考え方や生き方を伝える努力をしている。・「夏休み子ども・龍馬フォーラム」は、歴史学習にとどまらず、龍馬の生き方を通じて身近な課題から世界情勢までを自ら学び考える機会となっており、人材育成の場ともなっている。

評価項目

(2) 龍馬に関する講座やシンポジウムの開催など、龍馬への県民の理解が深まる取り組みを充実させる

状況説明

- ・ウィーン在住のオペラ歌手によるオペラリサイタル「愛の讃歌～お龍と龍馬」(約 1,000 人)公演を開催した。本格的なオペラ歌手によるオリジナル楽曲をより多くの県民に知っていただく取り組みであった。また公演をきっかけに、オーストリア・ハプスブルク家主宰の平和団体「平和の炎」から「平和の炎賞」をウィーンにおいて受賞した。
- ・現代龍馬学会総会・発表会は 6 回目を迎え、研究発表、講演内容も充実している。会員以外の受講者も増えつつあり、総会での発表のみならず例会での発表も多様化している。
- ・2015 年の大河ドラマが幕末を舞台としており、学芸員の他県での講演、パネリストとしての参加などが増加した。
- ・近江屋対談では、香道の先生方の協力を得て「お香とお話を聞く会」を開催し、学芸員が龍馬を語る新しいステージが誕生した。
- ・龍馬生誕記念の 11 月 15 日に開催した桂浜・手筒花火大会(約 500 人)やレッツゴー！ハンドインハンド(約 750 人)は、県内はじめ日本各地から参加者を得た。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none">・平成 26 年度は、龍馬の生き方や考え方を伝えるため、オリジナルのオペラ楽曲を制作し披露するという新たな取り組みを実施した。・現代龍馬学会や夏休み子ども・龍馬フォーラム、近江屋対談など龍馬に関する講座やシンポジウムを継続して実施した。

要求水準－広報

龍馬に関する情報を全国に発信し、新たなファン層の拡大とリピーターの定着を図る

評価項目

(1) ホームページを活用し、より多くの方に龍馬を知ってもらうとともに、来館への動機づけにつながるような情報発信を行う

状況説明

- ・情報発信は、館だより「飛騰」をはじめホームページでも積極的に行っている。当年度ホームページのアクセス数は前年より増加しており、龍馬を広く伝える広報手段として活用できている。
- ・またアンケートでは、「龍馬館を何で知りましたか」という問いに対しホームページと回答する数が、ロコミ、雑誌と並んで毎月3位以内に入っており、ホームページでの情報発信が来館へとつながっている。
- ・ホームページの速報性を活かし、イベントへの参加案内や、ブログ「館日記・海の見える窓」などで、リアルタイムでの情報発信を行った。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none">・ホームページや「飛騰」を活用し、来館の動機づけになるよう情報発信を行っている。・ホームページのアクセス数は増加しており、国内外に向けて龍馬を広く伝える有効な手段として定着している。・「飛騰」は、単に直近の企画展やイベントの紹介にとどまらず、現代龍馬学会員の執筆ページや学芸員による話題の人物へのインタビュー記事などを掲載し、館の魅力を発信する広報誌として充実している。・ホームページの特性をうまく利用し、情報の更新頻度を増やしたり、紙媒体には掲載しきれない情報を網羅したりするなど、広報手段によって内容、情報量の使い分けをすることでより効果的な広報となるよう期待したい。

評価項目

(2) 来館者が龍馬に宛てて手紙を書く「拝啓龍馬殿」など、来館者の思いをくみ上げる取り組みを継続して行うとともに、その内容を活用し効果的な広報を行う

状況説明

- ・「拝啓龍馬殿」は年間 500 人近くの投書があり、季刊である館だより「飛騰」で見開き 2 ページにわたって紹介している。このコーナーによって「飛騰」の読者増加にもつながっている。また、「拝啓龍馬殿」の投稿者から龍馬フォーラムなど館のイベントへの参加者も生み出した。
- ・アンケートや出口調査により、来館者の声をくみ上げ満足度を探ることで、来館者サービスの向上を図った。

評価	理由
A	・「拝啓龍馬殿」は、小学校低学年から高齢者まで幅広い層からの参加があり、好評を得ている。また、この参加をきっかけにして、館の取り組みに注目する人を増やすことにもつながっていると認められる。 ・観光地に立地していることを踏まえ、来館者の特徴を把握し、サービス向上に活かそうという努力が認められる。

評価項目

(1) 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状況説明

・新資料の発見から寄託への動きをきっかけにして、京都国立博物館、福井県立歴史博物館、福井市立郷土歴史博物館、長崎市立亀山社中記念館、下関市立長府博物館等の施設とこれまで以上に連携を強化することができた。

・県内においては、安田町との連携交流が定着し、今まで当館主導で行っていた企画展示も共同で企画運営できるようになり、毎日入館者が訪れる充実した展示を行った。郡部における地域連携基盤が構築できた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新資料の発見という大きな話題をきっかけにして、歴史系博物館との情報交換、共同調査ができたことは大きな成果である。 ・県東部での発信拠点となる安田町との連携が強化され、入館者数でも目にみえる実績があがっている。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1) 適切な管理運営の確保

社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報 ・情報公開の状況
建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

- ・法令及就業規定等諸規定の遵守に努めた。
- ・情報公開は1件対応した。
- ・機械器具等の保守管理については、関係会社に委託し、適切な管理を行い、修繕の必要な箇所はできるだけ速やかに修繕を行った。
- ・消防計画に沿った館内組織体制を定め、危機管理マニュアルを作成し、職員に周知した。9月には、消防署立会いの下、消防訓練、避難誘導訓練を実施した。地震等の災害に備え、館内にヘルメットの配置や水、簡易トイレ等の備蓄をしている。

評価	理由
B	・上記により適正な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目

(2) 利用者サービスの維持向上

サービス向上への取り組み	・利用者の意見の反映 ・自己点検 ・評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み
--------------	---

状況説明

- ・利用者の意見やニーズを把握するため、来館者全員にアンケート用紙を配布し、意見の収集している。また、回収した意見については、毎月の職員ミーティング時に、全職員が共有し、館の運営の向上につなげている。
- ・クレームには適宜対応した。
- ・職員の専門性向上のため、財団本部が実施する研修や、障害者サポート研修、おもてなし研修などに参加した。
- ・夏場に空調機が故障してしまったが、団扇の配布や冷水の提供を行い、来館者に少しでも快適に館内を楽しんでもらえるよう対応した。
- ・その他、来館者に理解を深めてもらうよう、学芸員による解説、案内や職員が笑顔で出迎える取り組みなどを行った。

評価	理由
B	・上記により、利用者サービス向上に努めたと認められる。

評価項目 (3)利用実績	
利用実績の状況	・利用状況の分析

状 況 説 明	
<ul style="list-style-type: none"> ・年間4本の企画展を開催した。新発見の書簡の展示や、第12代酒井田柿右衛門の龍馬像、孫正義氏所有の龍馬の手紙を展示した期間は、前年度を上回る来館者があった。 ・オペラリサイタルや手筒花火、レッツゴー！ハンドインハンドなど各種イベントを実施し県内外からの参加があった。 ・2階の「海の見えるぎやらいい」を一般の方に開放し、館の利用の増加に努めた。 ・目標の14万人を上回る14万6千人の来館者があった。 	

評 価	理 由
A	・年間を通じた企画展の開催や県内外から多くの集客のあったイベントなどを実施し、目標を上回る入館者となった。

評価項目 (4)収支の状況	
経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み

状 況 説 明	
<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じ休館日を設けない企画展の実施や各種イベントの実施や、高知県観光コンベンション協会や観光関連業者との連携、観光雑誌・新聞等への広告掲載等により来館者増の取り組みを実施した。 ・各種イベントを通じて、館の存在を県民に周知し、来館者の増加につなげた。 ・経費削減の取り組みとして、職員はもとより来館者に対する節電対策の周知を行い、夏には来館者にうちわの配布、冷水を提供し、暑さ対策を行った。 ・デマンド警報機の設置による節電対策、不要な電気の消灯などによる経費節減の取り組みを実施した。 	

評 価	理 由
A	・上記により、来館者増加による収入増加や経費削減の取り組みに努力が認められる。

総合評価

評価	理由
A	<p>年間4本の企画展と常設展示を行い、龍馬の魅力を紹介するとともに、新資料の収集や他の博物館施設との調査研究における協力体制を構築した。</p> <p>また、桂浜地区の関係団体と連携しながら多彩なイベントを開催し、県内外からの集客を図り、観光地の立地を生かしながら地域に貢献している。</p> <p>以上のことから、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。</p>

意見
<p>リニューアルに向け十分な情報発信が行われるよう期待したい。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。